

# 農林水産商工常任委員会資料

(令和3年7月1日)

## 項 目

- 1 令和2年度企業局の経営状況について ..... 2ページ

企 業 局

# 令和2年度企業局の経営状況について

令和3年7月1日  
企業局経営企画課

## 1 電気事業

### (1) 経営状況

営業収益は、年間販売電力量が、春米発電所のリニューアル工事後の試運転期間が前年より長かったこと(約1ヶ月→5ヶ月)などから、前年度比約16%増の約14万7千MWhとなったことによる売電収入の増、また、春米発電所のコンセッション移行に伴う運営権対価収益により19億36百万円(前年度比1億41百万円増)となった。

営業費用は、固定資産除却費、減価償却費、人件費(定数見直し:3人減)の減等により14億44百万円(前年度比86百万円減)となったことから、営業利益は4億92百万円(前年度比2億27百万円増)となった。

また、営業外収益は、春米発電所運営維持業務受託収入の皆増等により1億9百万円(前年度比36百万円増)となり、営業外費用は、38百万円(前年度比25百万円減)となったことから、営業外利益は71百万円(前年度比61百万円増)となった。

以上により、経常利益及び当年度純利益は5億63百万円(前年度純利益2億75百万円、黒字幅は2億88百万円拡大)となった。

### ○損益計算書(令和2年度)

(単位:千円)

費用		収益	
営業費用	1,443,866	営業収益	1,935,762
水力発電費	1,032,394	水力電力料	1,464,946
風力発電費	85,750	風力電力料	82,352
太陽光発電費	195,718	太陽光電力料	323,801
一般管理費その他	130,004	繰延運営権対価収益	64,663
		営業雑収益	0
		営業利益	491,896
営業外費用	38,088	営業外収益	109,515
支払利息	37,779	受取利息	8,008
雑損失	309	長期前受金戻入	30,289
		他会計補助金	10,301
		雑収益	60,917
		営業外利益	71,427
		経常利益	563,324
特別損失	0	特別利益	0
		当年度純利益	563,324
		その他未処分利益剰余金変動額	239,611
		当年度未処分利益剰余金	802,935

### ○貸借対照表(令和2年度末)

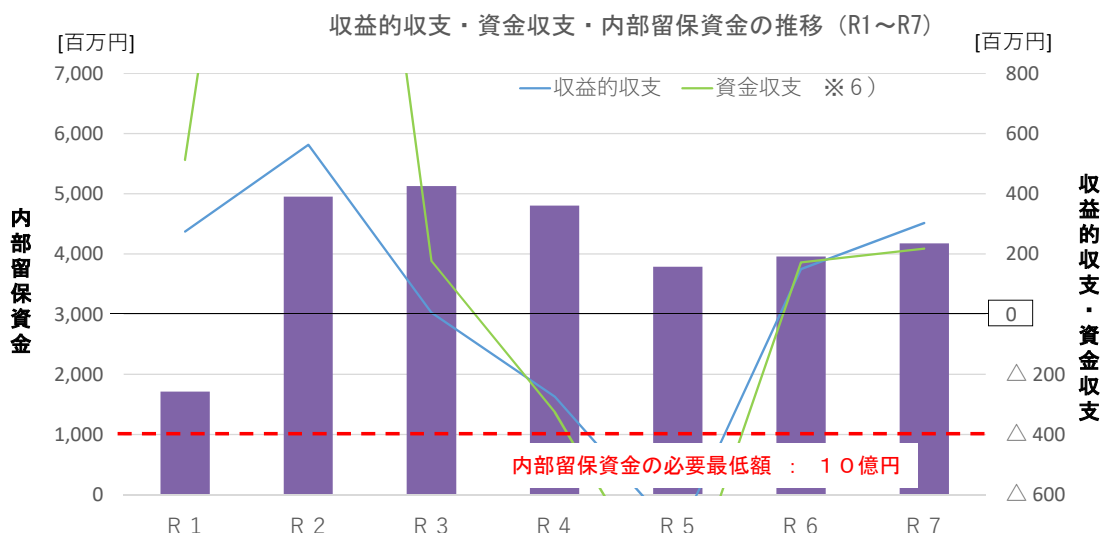
(単位:千円)

資産		負債	
固定資産	15,956,817	固定負債(企業債、引当金)	8,132,007
有形固定資産	14,687,343	流動負債(企業債、未払金等)	1,836,608
無形固定資産	1,269,474	繰延収益	6,567,391
投資その他資産	2,050,607	長期前受金	605,454
流動資産	6,831,228	繰延運営権対価等	5,961,937
現金預金	6,422,339	負債合計	16,536,006
未収金等	408,889		
		資本	
		資本金	7,272,460
		剰余金	1,030,186
		資本合計	8,302,646
資産合計	24,838,652	負債・資本合計	24,838,652

(2) 収支見通し

収支については、今後コンセッションに移行する3発電所（小鹿第一・第二、日野川第一）のリニューアルに伴う運転停止により、令和4～5年度は一時的に赤字となるが、それ以降はコンセッションの運営権対価により収益が増加し、資金収支の黒字化、内部留保資金の増加で、より安定した経営が確保できる見込みである。

また、残る17発電所のうち、FIT適用発電所（14施設）については、引き続き安定的な収益が確保できる見通しであり、その他の中国電力との長期契約を解消した水力発電所（3施設）については、発電供給力の価値を取引する容量市場や非化石電源（再生可能エネルギー等）が持つ「非化石価値」を証書化し取引を可能にする非化石価値市場等の新制度を通じて収益の確保に努めていく。



(単位:百万円)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	1,868	2,045	1,811	1,504	1,353	2,030	2,432
営業収益	1,795	1,936	1,697	1,417	1,266	1,936	2,340
運営権者更新投資収益	0	0	106	106	106	353	491
繰延運営権対価収益	0	65	111	111	172	383	649
長期前受金戻入	32	30	29	37	27	27	27
その他 ※4)	41	79	85	50	60	67	65
費用	1,593	1,482	1,806	1,778	2,089	1,880	2,129
運転経費 ※5)	973	881	1,084	1,025	1,369	905	1,005
減価償却費	582	563	687	723	693	951	1,103
支払利息	38	38	35	30	27	24	21
収益的収支	275	563	5	△ 274	△ 736	150	303
資本的収入	2,701	3,866	175	111	653	383	649
企業債	2,700	0	64	0	481	0	0
運営権対価	0	3,865	111	111	172	383	649
その他	1	1	0	0	0	0	0
資本的支出	3,272	1,797	465	688	1,134	638	760
建設改良費	2,768	1,398	70	221	529	108	120
企業債償還金	504	399	352	462	605	530	640
一般会計繰出金	0	0	43	5	0	0	0
資本的収支	△ 571	2,069	△ 290	△ 577	△ 481	△ 255	△ 111
資金収支 ※6)	513	3,241	177	△ 325	△ 1,015	172	218
内部留保資金 ※7)	1,710	4,951	5,128	4,803	3,788	3,960	4,178

※1)「収益的収支」は税抜き、「資本的収支」は税込み

※2) R1・R2: 決算額、R3以降は推計

※3) R2: 9～春米発電所がコンセッションによる運営に移行。小鹿第一・第二、日野川第一もリニューアル後順次移行

※4) 収益のその他は、受取利息、退職給与金に係る他部局負担金、災害共済金 等

※5) 運転経費: 人件費、修繕費、委託料、市町村交付金 等

※6) 資金収支 = 収益的収支 + 資本的収支 + 減価償却費 + 除却損 + 特別損益 - 繰延運営権対価収益 - 運営権者更新投資収益 - 長期前受金戻入 + 引当金増減

※7) 内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。

## 2 工業用水道事業

### (1) 経営状況

営業収益は、休止ユーザーに対する200m<sup>3</sup>/日の供給の再開(4月)や1社50m<sup>3</sup>/日の増量(3月)があったものの、2社計150m<sup>3</sup>/日の減量(4月・1月)があり、契約水量は前年度比100m<sup>3</sup>/日の増となったが、令和元年10月の1社300m<sup>3</sup>/日の減量に伴う基本料金や、利用水量の減に伴う超過料金の減少により、3億56百万円(前年度比6百万円減)となった。

営業費用は、減価償却費、資産除却費、修繕費の減等により5億26百万円(前年度比71百万円減)となったことから、営業損失は、1億70百万円(前年度比65百万円縮小)の赤字となった。

営業外収益は、長期前受金戻入の減により1億8百万円(前年度比22百万円減)となり、営業外費用は、企業債利息の減により71百万円(前年度比11百万円減)となったことから、営業外利益は、37百万円(前年度比11百万円減)となった。

以上により、経常損失及び当年度純損失は1億32百万円(前年度純損失1億86百万円、赤字幅は54百万円縮小)となった。

#### ○損益計算書(令和2年度)

(単位:千円)

費用		収益	
営業費用	525,840	営業収益	356,263
業務費	202,334	給水収益(日野川)	250,776
総係費	871	給水収益(鳥取地区)	105,487
減価償却費	315,825	その他の営業収益	0
資産減耗費	6,810	営業損失	▲ 169,577
営業外費用	71,077	営業外収益	108,289
支払利息等	70,872	受取利息等	3
雑支出	205	長期前受金戻入	89,180
		他会計補助金	489
		雑収益	18,617
		営業外利益	37,212
		経常損失	▲ 132,365
特別損失	0	特別利益	0
		当年度純損失	▲ 132,365
		前年度繰越欠損金	▲ 3,490,489
		当年度未処理欠損金	▲ 3,622,854

#### ○貸借対照表(令和2年度末)

(単位:千円)

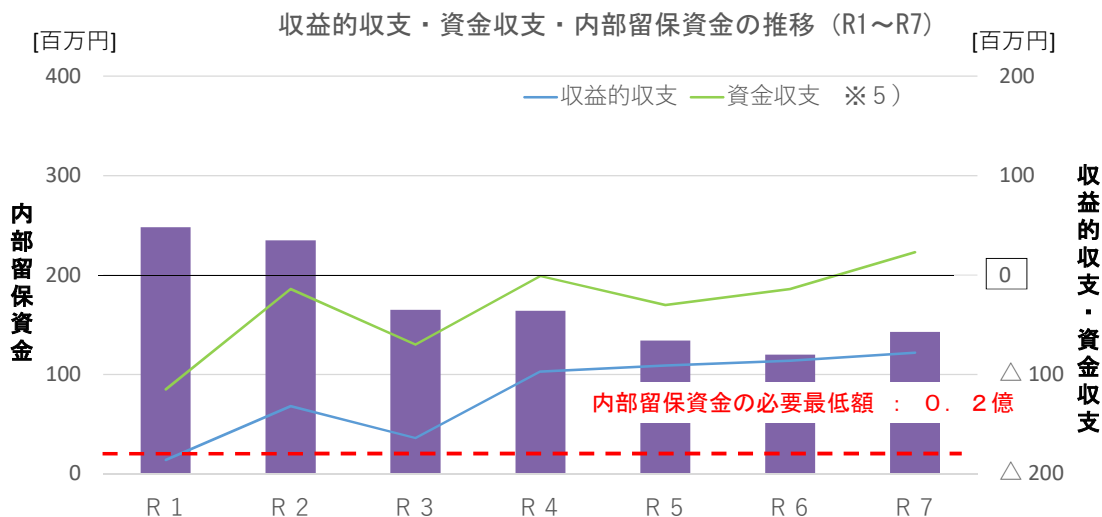
資産		負債	
固定資産	8,700,730	固定負債(企業債、引当金等)	4,766,689
有形固定資産	6,941,940	流動負債(企業債、未払金等)	505,294
無形固定資産	1,758,790	繰延収益(長期前受金)	2,197,092
流動資産	243,093	負債合計	7,469,075
現金預金	147,756		
未収金等	95,337	資本	
		資本金	4,804,679
		剰余金	▲ 3,329,931
		資本合計	1,474,748
資産合計	8,943,823	負債・資本合計	8,943,823

(2) 収支見通し

令和3年度中途からの新規大口2社（バイオマス発電会社）の供給開始や、令和4年度当初からの新規1社の供給開始及び1社契約水量の増量開始に伴う増収、支払利息等の減により収益的収支の赤字幅が縮小し、また企業債償還金の減もあり資金収支は改善される見通しである。

内部留保資金は、企業債償還金等により令和6年度には1.2億円まで減少するが、必要最低額（各種引当金相当額（退職給与・賞与））の0.2億円は確保できる見込みである。

また、令和7年度には資金収支が黒字に転じる見込みである。引き続き、県商工労働部局、地元市等と連携し、企業進出や増産、設備投資の動向等も見据えながら、工水需要の確保・拡大と施設の長寿命化に取り組むことで内部留保を蓄積し、日野川工水の管路更新等に備える。



(単位:百万円)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	493	464	512	517	515	515	514
営業収益 ※3)	363	356	380	415	418	418	418
長期前受金戻入	105	89	85	84	79	79	78
その他	25	19	47	18	18	18	18
費用	679	596	676	614	606	601	592
運転経費 ※4)	236	210	304	236	232	230	229
減価償却費	361	315	310	324	326	329	327
支払利息	82	71	62	54	48	42	36
収益的収支	△ 186	△ 132	△ 164	△ 97	△ 91	△ 86	△ 78
資本的収入	614	492	529	450	323	220	389
企業債	269	178	221	184	118	5	174
出資金	313	305	308	266	205	215	215
国庫補助金	32	9	0	0	0	0	0
資本的支出	829	620	680	611	520	399	553
建設改良費	322	164	221	185	118	6	174
企業債償還金	507	456	459	426	402	393	379
資本的収支	△ 215	△ 128	△ 151	△ 161	△ 197	△ 179	△ 164
資金収支 ※5)	△ 115	△ 14	△ 70	△ 1	△ 30	△ 14	23
内部留保資金 ※6)	248	235	165	164	134	120	143

※1)「収益的収支」は税抜き、「資本的収支」は税込み

※2) R1・R2: 決算額、R3以降は推計

※3) 営業収益: R3以降はバイオマス発電等の新規需要を見込む

※4) 運転経費: 人件費、修繕費、委託料、市町村交付金 等

※5) 資金収支 = 収益的収支 + 資本的収支 + 減価償却費 + 除却損 + 特別損益 - 長期前受金戻入 + 引当金増減

※6) 内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。

### 3 埋立事業

#### (1) 経営状況

営業収益は、竹内工業団地において土地分譲3件(新規2件、長期貸付からの切替1件、3件とも一括払)、旗ヶ崎工業団地において土地分譲1件(長期貸付からの切替1件、割賦払)があったことから、土地売却収益が増加し、長期貸付料は減少したものの、2億59百万円(前年度比1億55百万円増)となった。

営業費用は、上記の土地分譲に伴う土地売却原価の増等により1億71百万円(前年度比1億35百万円増)となり、営業利益は88百万円(前年度比20百万円増)となった。

営業外収益は、短期土地貸付料が前年度とほぼ同額であったことから、営業外利益は7百万円(前年度と同じ)となった。

以上により、経常利益及び当年度純利益は95百万円(前年度純利益75百万円、黒字幅は20百万円拡大)となった。

#### 【団地別処分状況(R3.3.31現在)】

(単位:ha)

団地名	造成面積	処分面積	長期貸付面積	未分譲面積	分譲率
竹内	128.6	108.6	14.1 (10区画)	5.9 (残4区画)	95.4%
旗ヶ崎	41.9	41.4	0.2 (1区画)	0.3 (残1区画)	99.3%

#### ○損益計算書(令和2年度)

(単位:千円)

費用		収益	
営業費用	170,280	営業収益	258,776
土地売却原価	140,935	土地売却収益	173,749
一般管理費	13,606	その他営業収益	85,027
企業誘致費	15,739	営業利益	88,496
営業外費用	4	営業外収益	6,988
長期借入金利息	0	受取利息	157
雑支出	4	他会計補助金	440
		雑収益	6,391
		経常利益	95,480
特別損失	0	特別利益	0
		当年度純利益	95,480
		前年度繰越欠損金	▲ 4,450,300
		当年度未処理欠損金	▲ 4,354,820

#### ○貸借対照表(令和2年度末)

(単位:千円)

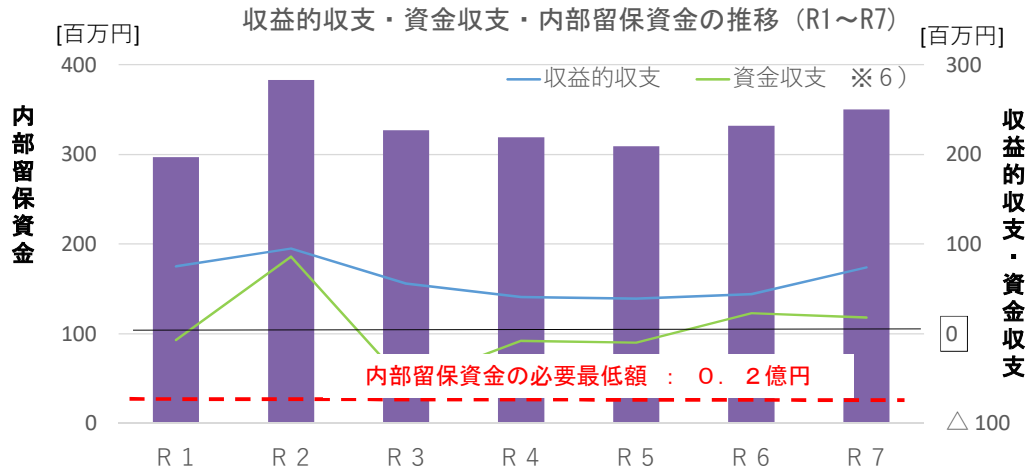
資産		負債	
固定資産	0	固定負債(引当金)	19,174
土地造成(完成土地)	2,140,666	流動負債(他会計借入金等)	2,911,150
流動資産	677,360	負債合計	2,930,324
現金預金	518,985		
未収金等	158,375		
		資本	
		資本金	3,267,761
		剰余金(資本剰余金・繰越欠損金)	▲ 3,380,059
		資本合計	▲ 112,298
資産合計	2,818,026	負債・資本合計	2,818,026

※剰余金には未処理欠損金約43.5億円が含まれている。これは、平成26年度の会計基準の見直しにより、竹内工業団地の帳簿価格を「取得価格」から「時価」に変更したことにより、現金支出を伴わない評価損(約52億円)を計上したことによるもの。

(2) 収支見通し

土地売却（割賦分を含む。）や長期貸付による安定的な収入が見込まれ、収益的収支は、黒字が確保できる見通しである。なお、一般会計からの借入金残高約25億円は未分譲地（長期貸付含む）の売却により返済できる見通しである。

引き続き、県商工労働部局、地元市等と連携し、土地売却に向けて営業展開していくとともに、竹内工業団地の貨客船ターミナルの背後地の分譲については、地元境港市と連携し「みなと・賑わいづくり」にふさわしい分譲を進める。



(単位:百万円)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	111	266	206	112	109	120	404
営業収益 ※3)	104	259	172	81	81	95	381
その他 ※4)	7	7	34	31	28	25	23
費用	36	171	150	71	70	76	330
土地売却原価	5	141	78	1	1	9	264
運営経費 ※5)	31	30	72	70	69	67	66
収益的収支	75	95	56	41	39	44	74
資本的収入	0	0	0	0	0	0	0
資本的支出	87	150	190	50	50	30	320
借入金償還金	87	150	190	50	50	30	320
国庫補助金返還金	0	0	0	0	0	0	0
資本的収支	△ 87	△ 150	△ 190	△ 50	△ 50	△ 30	△ 320
資金収支 ※6)	△ 7	86	△ 56	△ 8	△ 10	23	18
内部留保資金 ※7)	297	383	327	319	309	332	350

※1) 埋立事業は消費税及び地方消費税については免税

※2) R1・R2: 決算額、R3以降は推計

※3) 事業収益: R3.6.1現在の分譲対象4区画(竹内1,2,3号地、旗ヶ崎2319-2)については未分譲のままとする。なお、長期貸付期間満了による企業等への土地分譲を見込む。

※4) 収益のその他は、土地貸付料(短期)、受取利息、退職給与金に係る他部局負担金 等

※5) 運営経費: 人件費、団地整備費、委託料、市町村交付金 等

※6) 資金収支 = 収益的収支 + 資本的収支 + 土地売却原価 + 特別損益 + 引当金増減

※7) 内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。